

「抗日戦争が勝利したとき、これらのひよわい機械工業は、すでに、日本帝国主義者に破壊されており、多くの機械や設備もまた国民党の接收員に盗売されていたのであった。国民党反動派がわが大陸から敗走したときには、また、多くの企業が反動分子から破壊をこうむった。解放されたさいには、いくつかのからっぽの建物とぼろぼろの機械が残っているだけだった。私営の機械工業にいたっては、圧倒的多数が、規模の大きくない、しかも、製造能力がひじょうに小さく、他の工業に従属して、部分的に修理、組立の任務をうけもつことしかできなかった。」

これが解放前のふるい中国での機械製造工業の実情だったのである。

二 解放後の建設の進展と建設資材にたいする需要

(1) 解放後の工業の回復と発展

国民党時代の中国は、前節にみたように、資本主義的に未発達で買弁勢力と封建残存勢力が支配するおくれた農業国であった。戦争前には国民総生産額のうち、近代工業による生産は、ほぼ一〇%にしかたつておらず、九〇%までが農業および手工業による生産であった。しかし、戦争中の発展により、中華人民共和国が成立した一九四九年には、国民総生産額中の近代工業生産のしめる割合は一七%となり、農業および手工業による生産は八三%にかわって

第7表 主要農産物生産指数

年 度	棉花	穀物 総計	水箱	小麦	大豆
1949年	51	74.6	75.0	71.0	34.0
1950年	82	85.7	96.5	80.4	62.0
1951年	121	92.8	99.5	88.5	72.0
1952年	152	109.0	115.3	95.6	78.4
1953年	138	110.0	118.8	95.6	84.5
1954年		113.8	118.8	121.4	82.0

(註) (1) 基準年度=1936—37年。

(2) 出所=中研編、石崎書店刊、「中国年鑑」(1955年)

第6表

	近代工 業生産	農業・手 工業生産
1949年	19%	83%
1950年	19.6%	80.4%
1951年	24%	76%
1952年	28%	72%
1953年	31%	69%
1954年	33%	67%

いた。この割合は、共和国成立後、わずか五年しかたっていないが、第六表のように大きく変化してきた。

これはたんに相対的な比重がかわったことを示すだけのものではない。実際に、工業も農業もともに急速な発展をとげるなかで、このように工業生産の比重が著しく増大したのである。

このことは、主要工業品の生産高や主要農産物の生産高がともに著しく増大していることによって知られるであろう。まず、主要農産物生産指数をみると、第七表のとおりである。

この表がしめしているように、主要農産物は大豆をのぞいて、すべて戦前最高水準の年とみられる一九三六—三七年の水準をはるかに突破しているのである。なお、大豆についていえば、解放前は、世界的な輸出商品作物として広大な面積をこの大豆生産にふりむけていたのであるが、解放後は、その作付面積を著しく減らし、主穀物、棉花その他、国内原料作物の栽培に力がそそがれており、このため、大豆の生産指数が戦前基準をかなり下廻る結果になっているのである。

つぎに、主要工業品の生産指数をみると、第八表のようになって

第8表 主要工業品生産指数

		1949年	1952年	1953年	1954年
鉄	鉄	10.9	83.7	99.3	135.2
鋼	塊	15.8	134.3	176.5	215.5
鋼	材	17.8	164.9	219.5	不詳
電	力	72.3	121.5	154.0	不詳
石	炭	44.5	91.2	99.7	115.7
原	油	38.0	134.0	206.1	不詳
セメント		30.9	133.8	180.8	222.5
綿	糸	72.4	144.8	163.6	188.2
綿	布	72.6	222.2	263.5	不詳
紙		89.5	308.8	351.4	402.8

- (註) (イ) 解放前最高年生産額を100とす。
 (ロ) 1954年度は生産予定数字であり、周恩来の「政府工作報告」(54年9月)によって明かにされた。
 (ハ) その他の年については、国家統計局の数字その他を基にして算出。
 (ニ) 中研編、春秋社刊、図解「中国の経済」参照。

いる。

この表からみられるように、共和国成立後、わずか五年の間に、いずれも、急速な発展をとげている。解放前最高水準の二倍以上にたっているものもすくなくはない。このうち、石炭、鉄鉄の発展は比較的のろい速度ですすんできた。しかし、これには、注目すべき特別の原因がある。

石炭、鉄鉄は、戦前および戦時中、相当量が日本に輸出されていた。解放後は、このうち、石炭はあまり輸出しなくなったし、鉄鉄はぜんぜん輸出しなくなった。石炭は解放直後、一時、無計画な濫掘にながれたきらいがあったが、その後、その誤りが是正され、炭鉱労働者を他に配置転換などとして採炭設備の改善に力を注いだ。石炭業では、輸出が減り、国内産業の回復、発展もそれほどでなかった。需要の絶対額はそれほど多くはなかった。だから、採炭量はそれほど急速に増大しなかったのである。しかし、反面では、採炭設備の改善、機械化を大規模にすすめた。五二―三年頃から漸くその効果があらわれはじめ、五四年には著しい発展となった。五カ年計画の実施を見越して、一九五一年頃からすすめてきたこの採炭設備の改善、および機械化がなかった。

とすれば、大規模な五ヶ年計画はたち得なかったであろう。銑鉄についても、ほぼ同様なことがいえる。解放前には製鉄設備はかなりあった（主として東北）が、製鋼設備はそれにくらべておくられていた。解放後は、製鋼設備をふやして、製鋼と製鉄との釣合いをとる必要が生じた。そのため製鋼設備の増大に主として力が用いられた。これが銑鉄の生産回復が比較的におくれた原因の一つである。

しかし、もちろん、この間にも、大規模な製鉄事業の基本建設がすすめられてきた。その効果があらわれてきたのは一九五三年、五四年頃からである。鞍山の第七、第八大型自動熔礦炉などの完成は一九五三年であった。その他の鉄鋼基地においても五三―四年には高炉、平炉の建設が著しくすすんだ。このようにして、製鉄設備と製鋼設備の不釣合を是正する過程は、また、他方からみれば、従来のような、製鋼や機械の生産ではおもに外国（日本その他）に依存し、その原料、材料としての鉄礦石や銑鉄を他国（主として日本）に輸出するという植民地・半植民地的産業体制を一新して、国の工業化の基礎であり、そして、また、国の経済的独立とその自主的発展の基礎である製鉄、製鋼、機械製造業の建設、発展をはかる過程であった。

しかし、何といっても、このような経済の急速な発展、とくに、工業の基本建設に要する機械、設備類が、わずかの五年間に自給できる水準にまでたっしたものとはどうしても考えられない。なぜなら、これまで、百余年のあいだ、植民地的・半植民地的状態にあった中国には、機械工業の基礎をほとんどもっていなかったからである。このような状態で、このような急速な復興、建設をはかるには、どうしても、他国から、相当の建設資材や機械類を供給してもらわなければならないであろう。

このことについて考えるまえに、ここで、まず産業の恢復・発展、とくに産業面での基本建設がどのように行われ

てきたかを、みてみよう。

(2) 基本建設の進捗

人民政府は、共和国成立と同時に、重工業の建設を中心とした国民経済の全面的な復興発展の仕事にとりかかった。しかし、全体的には、一九四九年から一九五二年にいたる国民経済の回復期には、もともとあった工場の復旧や改築が主としておこなわれ、大規模な新しい建設は、一九五三年になって、はじめて開始された。この年には、国民経済の発展にとって決定的な意義をもついくつかの大工事があいついで着手された（『人民中国』五四年第七号所載、蔣一葦「中国機械工業の発展」）。もとよりこれらの大規模建設は殆んどすべてがすでに一九五〇年—五一年頃から準備にとりかかり、部分的に建設しはじめていたもので、五三年—五五年にいたって、生産に投入されはじめたのである。五三年—五五年中に建設をおわったか、もしくは建設中の大規模工業建設をひろってみると、つぎのとおりである。

まず、一九五三年までに完成を予定された重要基本建設計画をみると――

一、燃料工業

- (1) 電力Ⅱ新規建設、二五（火力発電所九、水力発電所三、変電所十二、超高压送電線三五九キロ）
- (2) 石炭Ⅱ新規建設、一三（竖坑八、斜坑三、露天掘二）
- (3) 石油Ⅱ新規建設、一五（十五カ所で採油、別に四万八千メートルのボーリング）

二、重工業

- (1) 製鉄Ⅱ新規建設、九（高炉九、そのうち一つは鞍山の自動化高炉）
- (2) 製鋼Ⅱ新規建設、三（庄延工場二、継目無し鋼管工場一）

三、機械工業

機械製作Ⅱ新規建設および改築一二（重機械、電器機械、計器切削工具、紡織機械、鉸山用機械、一般工作機械、造船、機関車、車輛等の各工場）

四、紡織工業

- (1) 綿紡織Ⅱ新規建設四（綿紡織工場四）
- (2) 亜麻原料Ⅱ新規建設二（亜麻原料工場二）

五、化学工業

- (1) 製紙Ⅱ新規建設一、改築二（製紙工場新築一、改築二）
- (2) ゴム製造Ⅱ増築二（ゴム工場増築二）
- (3) 製薬Ⅱ新規建設一、増築一（製薬工場新築一、増築二）

つぎに、以上の建設を中心とした一九五三年までの地域別工業企業建設状況を示すと――

A、東 北

- (イ) 重工業Ⅱ鉸山の大型圧延工場、継目無し鋼管工場、薄板圧延工場がそれぞれ新たに建設され、第七号第八号の自動化高炉もあらたに建設しなおされた。また鉸山の第一製鋼所、第一圧延工場が新規建設または改築された。なお五三年末の熔鉸設備は一、二、四、七、八号の五基で年産能力は推定一二〇万トン。このほか本溪を合せると一三の熔鉸炉、年産約二五〇万トンの製鉄能力。

- (ロ) 機械工業Ⅱ瀋陽第一機床廠の増築、ハルビン計器切削工具工場、第一自動車製造工場の新規建設、瀋陽電線工場、瀋陽第二機床廠、瀋陽第一機床廠の拡張開始、ハルビンの三棵樹鉄道工場の拡張開始、ハルビン大型電機工場、ハルビン和平機床廠の生産開始。ハルビン・ボイラー製造工場、ハルビン・スチーム・タービン工場の建設開始。

- (ハ) 燃料動力工業Ⅱ豊満水力発電所の改築拡張、撫順発電所の新規建設。このほか露天掘坑二、豎坑七の新築、斜坑三の改築、石油工場三の復旧。

- (ニ) 化学、食品及び輕工業Ⅱ松哈製糖工場、東北化学製薬工場、チャムス綜合製紙工場、ハルビン毛織物工場、ハルビン亜麻

紡織工場の新規建設、他にゴム工場一の増築。

B、華北

(イ) 紡織工業 北京第一綿紡織工場、石家荘第一綿紡織工場新規建設（五四年四月より操業）、公私合營唐山華新紡織公司石家荘工場増築開始、地方国营石家荘綿織工場、大興紡織工場の増築。

(ロ) 重工業 竜烟鉄鉱の二つの小型熔鉱炉の新規建設、天津製鋼所の拡張。

(ハ) 機械工業 太原経緯紡織機械製造工場の新規建設、太原熱電廠の新規建設。

C、華東

重工業 馬鞍山煉鉄廠六つの小型熔鉱炉の新規建設。

D、西北

(イ) 燃料動力工業 西安第二火力発電所、ウルムチ発電所の新規建設。

(ロ) 輕工業 西北国营綿紡廠第一、第二工場の新規建設、他に自動化製靴工場の新規建設あり。

E、西南

輕工業その他 重慶六一〇自動織布工場、重慶樟酸塑料工場の新規建設、生産開始、重慶六一〇捺染工場、雲南捺染工場、昆明機械煉瓦工場、成都機械煉瓦工場の新規建設、

F、中南

(イ) 燃料動力工業 鄭州火力発電所の新規建設。

(ロ) 機械工業 湘潭電機廠の増築、湘潭電線工場の新規建設。

(ハ) 輕工業その他 広州国营紫泥製糖工場、国营広州製紙工場、鄭州国营第三綿紡織工場、鄭州製氷工場の新規建設。

G、内蒙

包頭に発電所新規建設、鋼鉄工場建設準備着手。

つづいて、新華社電によって、一九五四、五五年（五月末まで）の地域別、部門別重要基本建設状況をひろってみると、つぎのとおりである。

A、東 北

(イ) 重工業Ⅱ鞍山三大建設（自動化高炉、継目無鋼管工場、大型圧延工場）生産開始（三月）、鞍山第二薄板工場一部試運転（五四、四、一九）、同工場生産開始（六、二四）、鞍山に磁鉄加工工場建設（八、一二）、鞍山第一製鉄工場改築なる（九、一二）、鞍山第一号平炉改築工事完成（一二、三一）、鞍山第十一、第十二号コークス炉改築なる（五五、一、三一）。

(ロ) 機械工業Ⅱ瀋陽第一機床廠、瀋陽電線工場、瀋陽氣動工具工場、第二機床廠、瀋陽重型機械工場、瀋陽鉚山機械工場それぞれ改築工事進展（五四、二、八）、ハルビン計器切削工具工場ア部生産開始（三、三〇）、国営瀋陽高圧閉器工場六千キロ水力タービン試作（四、一四）、ハルビン精密工具廠夏から生産開始、第一自動車工場の六つの工場落成（二〇、二六）、瀋陽自転車工場増築完成（一二、一四）、瀋陽氣動工具廠操業開始（一二、一七）、ハルビン計器切削工具工場全面生産開始（五五、一、一八）、ハルビン電氣計測器工場建設開始（二、一）、瀋陽電線工場増築に着手（二、四）、ハルビン電機工場第一期拡張工事着手（二、一七）。

(ハ) 燃料動力工業Ⅱ二十二万ボルト高圧送電線三百六十九キロ完成、送電開始（五四、一、二七）、西安中央堅坑、鶴岡東山堅坑、双鴨嶺西堅坑、本溪彩屯堅坑、鶴西小桓山堅坑建設進捗（二、二〇）、撫順人造石油工場五月から生産開始（四、八）西安炭鉱にドンバス式堅坑建設開始（六、二二）、東北石油五廠復旧工事完成（七、九）、阜新発電所第二期拡張工事終了（九、一四）、東北石油一廠拡張工事完成（一〇、五）、撫順発電所第二期拡張工事完成（一〇、二〇）、東北石油二廠復旧工事完成（一〇、二六）、東北石油五廠新設備で操業開始（一一、二六）、チャムス熱電廠新規建設開始（五五、三、一七）、阜新発電所第三期拡張工事開始（五、四）。

(ニ) 化学食料および輕工業Ⅱ東北化学製薬工場増築開始（五四、二、八）、鞍山化学工業総廠を全面的に改造着手（五五、三、二七）、新中国製糖廠（吉林省）建設開始（四、七）。

B、華 北

一四

- (イ) 重工業 Ⅱ 石景山鋼鐵廠一號高炉修理完成(五五、五、一〇)。
- (ロ) 機械工業 Ⅱ 金屬組立材料工場(北京)新規建設生産開始(五四、二、一七)、中央度量衡工場生産開始(五、七)、張家口ボーリング機械工場増築開始(六、一一)、国営経緯紡織機械製造工場生産開始(八、一)、大同機関車車輛製造廠新築開始(五五、二、一六)。
- (ハ) 燃料動力工業 Ⅱ 峯炭鉦大拡張着手(五四、二、一九)、大同炭鉦拡張着手(三、二、二七)、唐山、峯峯、微水、下花園火力発電所拡張工事進展(五、七)、天津火力発電所拡張第一期工事完成(五、二)、太原第一発電所建設完成(九、八)、通州発電所拡張完了送電開始(一一、一四)、太原第五発電所新規建設開始(五五、二、一六)、太原電熱廠試運転(三、二七)、石家荘に大型熱電廠新規建設開始(四、一)。
- (ニ) 紡織工業 Ⅱ 北京第二綿紡織工場の新規建設開始(五四、三、二七)、国営石家荘第二綿紡織工場起工(三、二七)、石家荘第一綿紡織工場操業開始(五、三)、国営邯鄲第一綿紡織工場および地方国営石家荘綿紡織工場操業開始(九、一〇)、北京第二綿紡織工場増築工事完成(一〇、二〇)、北京第三綿紡織工場新築設計開始(一一、一二)、北京第二綿紡織工場試運転開始(五五、四、一)。
- (ホ) 化学工業および軽工業 Ⅱ 北京に製薬工場、ガラス工場新規建設開始(五四、二、一七)、国営太原セメント工場増築着手(九、八)、大同セメント工場(中国最大)の新規建設開始(五五、一、二〇)、大同口泉セメント工場完全に復旧(一、二〇)。

C、華 東

- (イ) 機械工業 Ⅱ 上海電気メーター工場操業開始(五四、四、一)、上海に蒸気タービン工場を新規建設開始。
- (ロ) 燃料動力工業 Ⅱ 揚子江下流高圧送電網完成(五四、六、二〇)、淮南炭鉦八公山新炭田の基本建設開始(六一六)、仏子嶺ダム水力発電所送電開始(一一、六)。
- (ハ) 化学および軽工業 Ⅱ 安徽省に磷酸肥料工場新規建設開始(五四、一、一五)、国営安徽製紙工場操業開始(四、二三)、国営上海精油工場拡張開始(四、二七)。

D、西 北

五三年中には発電所、紡織工場、ペンキ製造工場、捺染工場、製粉工場など五九工場が新築、増築された(五四、二、六)。

(イ) 重工業Ⅱ新疆八一鋼鉄廠火入れ(五四、四、一七)。

(ロ) 機械工業Ⅱ宝鶏に鉄道車輛修理工場新築開始(五四、五、五)、西安金属骨組工場新規建設開始(一一、一五)、宝鶏の大
型鉄道車輛修理工場完成(一一、一六)。

(ハ) 燃料動力工業Ⅱ銅川、阿干鎮炭鉱の拡張開始(五四、二、六)、阿干鎮、石門薄両炭鉱改築工事開始(六、五)、蘭州発電
所拡張開始(七、一〇)、玉門の高熔ピッチ工場操業開始(九、一九)。

(ニ) 紡織工業Ⅱ新疆省に捺染工場新規建設開始(五四、五、三〇)、西北最大の国営西北綿紡織工場新築開始(六、六)、新疆
「七一」綿紡織工場増築開始(九、十一)、国営西北第三綿紡織工場操業開始(一二、一五)、西北第四綿紡織工場(陝西省)
新規建設開始(五五、一三)。

(ホ) 輕工業Ⅱ新疆セメント工場拡張による生産能力三倍化計画はじまる(五四、五、二三)、新疆省は食用油工場新規建設
(九、二)、甘肅省に近代的セメント工場新規建設(五五、四、一七)、西安金属骨組工場の機械据付開始(五、三〇)。

E、西 南

(イ) 重工業Ⅱ重慶第一〇一鋼鉄廠製鋼工場操業開始(五四、六、二三)。

(ロ) 機械工業Ⅱ重慶六一四廠(エアー・コンプレッサ工場)改築完成(五四、一、一五)、昆明ボーリング・マシン工場拡
張開始(二、四)。

(ハ) 燃料動力工業Ⅱ竜溪河中流の中型発電所送電開始(五四、一、二〇)、重慶五〇七電力廠送電開始(二、二四)、竜溪河上
流に水力発電所建設計画開始(三、二五)、雲南省に大型水力発電所建設計画開始(四、六)、石竜壩(雲南省)水力発電所
送電開始(五五、一、一〇)、開遠発電所建設開始(五、二九)。

(ニ) 紡織工業Ⅱ重慶六一〇綿紡織工場操業開始(五四、五、五)、雲南紡織工場増築開始(五、一七)、重慶に機械絹織物工場
新規建設開始(五五、三、二七)。

(ホ) その他Ⅱ四川省で三四の地方国营工場、鉍山と一四の公私合営工場、鉍山(重点は石炭、鉄、砂糖、磷酸、肥料、セメン

トなどの工鉱業）を改築、拡張（五四、八、九）。

F、中 南

- (イ) 重工業Ⅱ湖南錫鉱山の機械化開始（五四、二、二七）、大冶鋼鐵廠増築工事進展（五五、一、一七）、なお、五四年の中南区鉄鋼業建設投資費は五三年にくらべて三倍であった。
- (ロ) 機械工業Ⅱ広東省に三造船工場建設開始（五四、四、二二）武漢動力機廠、長沙機床廠、湘潭電機廠新規建設開始（六七）、廣州船舶修理廠第二ドック建築工事完成（五五、二、一）、中国最大の大型工作機械工場武漢に建設開始（五、一三）。
- (ハ) 燃料動力工業Ⅱ萍鄉炭鉱改造工事開始（五四、六、二）、鄭州発電所送電開始（六、二九）、洛陽、新郷に地方国营発電所新規建設開始（六、二二）、吉首発電所（湖南省）送電開始（五五、五、一）、武漢で最新式発電所施工開始（五、二九）。
- (ニ) 紡織工業Ⅱ湘潭綿紡織工場繰業開始（五四、二、一九）、鄭州第三綿紡織工場新築工事開始（四、二〇）、鄭州第一、二綿紡織工場繰業開始（九、一〇）、鄭州第三、四綿紡織工場新規建設開始（五五、二、二四）、国营鄭州第四綿紡織工場建設開始（五、一八）。
- (ホ) 軽工業、化学工業Ⅱ武漢冷凍肉加工工場繰業開始（五四、二、五）、国营廣州製紙工場増築開始（二、二三）、国营鄭州油脂化学工場新規建設開始（五、一二）、広東省の七つの製糖工場拡張開始（八、一）、国营廣州製紙工場拡張開始（一〇、一一）、鄭州油脂化学工場繰業開始（一二、一四）。

G、内 蒙 古

- (イ) 重工業Ⅱ包頭の大鋼鐵工場建設準備に着手、包頭付近で巨大な鉄鉱脈発見（五四、四、一九）。
- (ロ) 燃料動力工業Ⅱ帰綏、包頭、平地泉、貝子廟に発電所を新規建設または増築（五四、二、一五）、東勝発電所送電開始（六、三〇）、国营包頭火力発電所第一期拡張工事開始（九、一〇）、シリンホト発電所送電開始（一〇、一九）。
- (ハ) 軽工業Ⅱハイラルに冷凍肉工場新規建設開始（五四、二、一五）、札蘭屯に製粉工場新規建設開始（二、一五）、伊克昭盟のソーダ工場増築（七、七日）、包頭製糖工場新規建設開始（一一、二四）。
- (ニ) その他Ⅱ包頭に金属工場、酸素工場、耐火器材製造工場を新築または増築中（五四、二、一五）。

このような大建設が中国の機械製造工業にたいしてかける期待は、旧中国を考察の尺度にしているものにとつては、殆んど想像を絶したものであらう。

一般的にいえば、現在の大規模建設に要する機械のほぼ半分はすでに国内で生産されているといわれており、残りの半分が外国からの輸入に、とくに、ソ同盟、人民民主主義諸国からの輸入に依存しているといわれている。したがって、この外国からの機械・設備類の輸入量が一〇%でも二〇%でもふえれば、それだけ、中国の経済建設の速度もはやまるし、建設の規模も多くなるであらう。また、国内機械工業の発展が、一〇%でも、二〇%でもふえれば、建設は三〇%も四〇%もふえることになる。一部の人々は、中国にはたしてどれだけの購買力があるか、輸出余力があるかを心配している。この建設に役立つものであれば、中国はいくらでもほしいのである。もちろん、購買力には限度があるから、人民中国では、奢侈品や不急品や国内で生産できる普通の消費物資の輸入は国家の手によって抑えられている。だから、輸入物資は、主として、中国経済の建設に役立つものに限られている。他方、日本の一部で、「建設をたすけるものは売らない」、「中国の建設をたすけるものはすべて戦略物資だ」という論法を固執する人々がいるが、中国はもう昔の中国でないことを考えなければならぬ。それに、こういう考えかたの人々には互惠平等の貿易ということがよくわかっていないのであらう。経済封鎖によって、中国を困難に陥れ、中国を苦しめ、人民中国を破綻と崩壊にみちびく一つの手段にしようと考えてる人々は、中国にたいする経済封鎖や禁輸によって、ある程度まで、中国の経済的発展の邪魔をすることはできるであらうが、それで苦しめられるのは中国でなくて、自分たちだということを考えるべきである。中国では、すでに、ソ同盟、東欧諸国との貿易およびこれら諸国との協力によって、経済建設に必要な機械設備類の約半分を、これら諸国から手にいれているし、また、他の約半分を、国内におけ

る機械工業、重工業その他の工業の発展および社会主義的な増産節約運動、技術革新運動等によって、自らの手で創りだしはじめていのである。だからこそ、上述のような建設が可能なのである。これは中国経済の巨大な発展であり、旧中国では、不可能なことであつた。

では、中国の機械製造工業はどのような現状にあり、この大規模建設に、どのような役割をはたすであろうか。

三 機械工業の現状

解放後、中国の人民と政府が日本や国民党、官僚資本から受取つた近代工業の諸施設はまったく廃墟にちかいものであつた。だから、解放の年の一九四九年の近代工業の生産指数は、第九表のようなわずかのものではあつた。

これらの部門のその後の生産の回復発展については、さきの表でしめておいたとおりである。そこでこのほかの機械類の生産指数についてみると、第二〇表のとおりである。

第9表

	解放前 最高	1949年
鉄 鉄	100	10.9
鋼 塊	100	15.8
鋼 材	100	17.3
電 力	100	72.3
石 炭	100	44.5
原 油	100	38.0
セメント	100	30.9
綿 糸	100	72.4
綿 布	100	72.6
紙	100	89.5

(註) 薄一波財政部長が1952年に発表したもの。